

児童の栽培体験学習

周南市立勝間小学校

1 活動の概要

本校は、校区が多くの人に恵まれ、また、地域の方からは学校支援ボランティアとして多くの支援を受けている。これまでも、児童は、栽培体験学習をとおして多くの知識と知恵を獲得するとともに、収穫の喜びを味わってきた。実際に土に触れ、汗を流し、四季を感じる体験は、豊かな心の育成につながるものである。

今年度も、熊毛婦人会を母体とする遊休農地再生隊が行う学校支援ボランティアの支援を受け、感染症対策を講じながら栽培体験学習を実践することができた。田植え、芋の苗植え、稲刈り、はぜかけ、芋掘りの時期に栽培体験学習に取り組んだ。学習後には、関わってくださった多くの地域の方々への感謝の気持ちを、お礼の手紙や登下校時の挨拶で伝えている。

2 所属・人数

○学校 1年生児童（57名）、5年生児童（54名）

○地域 熊毛婦人会、遊休農地再生隊、学校支援ボランティア（約40名）

3 活動内容

(1) さつまいもの苗植え：1年生（6月）

児童は、生活科の学習であさがおを育てており、取り組む前から苗を植えることに興味津々であった。地域の方から植え方を学び、手本を見せてもらったり、一緒に穴を掘ったりしながら楽しく取り組むことができた。地域の方は、慣れない手つきで頑張る児童の活動を、温かく見守ってくださった。土作りやマルチ、苗の準備等、児童が活動しやすいよう丁寧に準備をしてくださっており、頭が下がる思いである。帰校後、地域の方がしてくださった準備について話し、児童からも感謝の言葉が聞かれた。また、さつまいもの絵本を使ってこれから苗がどのように成長していくのか学び、芋ができるまでのイメージを膨らませた。



(2) さつまいも掘り：1年生（10月）

児童は、さつまいもの成長を心待ちにしており、家族にも食べさせたいと期待を膨らませて当日を迎えた。しばらく雨が降ってなかったので土が大変硬かったが、事前に地域の方が、マルチを取り蔓を切ってくださっていたため、児童の力でも掘り出すことができた。掘ることが難しい児童には、地域の方が土起こしをしてくださったり、堀片のこつを教えてくださいとしたりして、収穫の喜びと一緒に分かち合うことができた。掘り出した芋をお土産に持たせてくださり、児童はその重みを感じながら嬉しそうな笑顔を見せていた。



(3) 田植え：5年生（6月）

児童は、田植え用に持ってきた服装に着替え、圃場まで歩いて移動した。到着すると、たくさんの地域ボランティアの方々のにこやかに待たれていた。始めに地域の方から苗の植え方についての説明を聞き、その後、近くで声をかけてもらいながら、実際に植えていった。児童の

ほとんどが泥田に入った経験がなく、最初の一步を踏み出すのに時間がかかる児童もいたが、すぐに慣れ、笑みを浮かべながら一生懸命植える姿が見られた。

社会科で米作りの学習を行い知識としては理解していたが、実際に体験することで新たな発見があり、教室では学ぶことができない貴重な学習の場となった。

地域の方から褒められたり、励まされたりしたことが児童の心に残り、「とても、うれしかった。」と感想を述べる児童もいた。また、「農業に関わる仕事をしたい。」という夢に一步近づけたと感想を書いた児童もいて、とても貴重な体験となった。



(4) 稲刈り、はぜかけ：5年生（10月）

6月に植えた餅米の苗が順調に育ち、刈り取りの時期を迎えた。児童は、社会科で学習した収穫までの「水の管理」や「雑草の処理」などの世話をボランティアの方にさせていただいたこと、無事に稲刈りができるということに感謝の気持ちをもつことができた。鎌を使ったことがない児童ばかりで、最初は怖々と扱っていたが、すぐにコツをつかみ楽しそうに次々と刈る姿が見られた。はぜかけの仕方についても教わり、児童は刈った稲を束ねては運んで行った。小さかった苗が大きく育ち、たくさんの実を実らせたことに児童は喜びを感じ、「刈った稲は、この後、どうするのですか。」とわくわくしながら尋ねる児童もいた。



(5) 餅つき：5年生（12月）

10月に収穫した餅米を使って、餅つきを行った。勝間市民センターには、たくさんの地域ボランティアの方々が集まって準備をしてくださっていた。児童は、3つのグループに分かれて、地域の方の指導の下、餅をついたり、丸めたりすることができた。児童にとって、杵はまだ重たく、力が入らなかったり、うまく真ん中につくことができなかつたりもしたが、慣れてくるにつれて、ぺったんぺったんという音が響くようになった。用意してきた容器は餅でいっぱいになり、たくさん持って帰ることができた。つくたての餅を前にして、「すぐ食べたい！」と、嬉しそうな児童が多かった。正月を前に日本の伝統行事を体験することができた。



4 活動の成果と課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、制限された生活の中での活動ではあったが、児童は地域のボランティアの方々と楽しく活動することができた。五感をとおして自然のよさを感じる貴重な体験学習であるとともに、地域に住んでいる人とのふれあいをとおして、地域の人々の思いにふれ、ふるさと勝間地区への愛着を感じる活動となった。ボランティアの方々が温かく見守ってくださったこと、優しく教えてくださったことがとてもありがたかった。児童の健やかな成長が楽しみだという思いが伝わってきた。また、年間を通じた圃場作業をとおして、大人同士のコミュニケーションを図ることができたと聞いている。栽培体験学習は、コミュニティ・スクールで大切にしている「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」につながる取組の一つである。今後も、一層活性化を図りたいと考えている。